（7） 片眼弱視における波長掃引型光干渉断層計を用いた黄斑部網膜厚および脈絡膜厚の検討

川崎医療福祉大学大学院感覚矯正学専攻修士課程　○荒木　俊介
川崎医療福祉大学感覚矯正学科　三木　淳司

【要　旨】

［背景］ヒトの弱視に対する研究方法は限られており，その病態はいまだに不明な部分が多い．近年，光干渉断層計（OCT）の登場により眼組織の断面像を非侵襲的に高解像度で撮影することが可能となったが，弱視患者の網脈絡膜における形態的変化に関しては不明である．

［目的］波長掃引型 OCT（SS-OCT）を用いて，片眼弱視患者の黄斑部網膜厚および脈絡膜厚を弱視眼，健眼，正常対照眼の間で比較した．

［対象および方法］対象は46例の片眼弱視患者［不同視弱視群31例（6.9±3.8歳），斜視弱視群15例（7.9±4.2歳）］および眼疾患のない24 例の健常者（7.8±3.3歳）とした．　網膜厚および脈絡膜厚は SS-OCT（DRI OCT-1 Atlantis®，TOPCON）により測定し，中心窩を中心とした直径 6 mm 範囲内を ETDRS マップを用いて解析した．網膜厚は黄斑部網膜神経線維層厚，神経節細胞層＋内網状層（GCL+IPL）厚，神経線維層＋神経節細胞層＋内網状層（GCC）厚，内境界膜から網膜色素上皮層までの ILM-RPE 厚に分けて検討した．網膜厚もしくは脈絡膜厚の比較には，眼軸長を共変量とした共分散分析を用いた．検定の有意水準は p=0.05とした．

［結果］不同視弱視群では，弱視眼の GCL+IPL 厚，ILM-RPE 厚および脈絡膜厚が健眼および正常対照眼よりも有意に厚かった．斜視弱視群では各眼の網膜厚および脈絡膜厚に有意差がなかった．不同視弱視群について，弱視眼と健眼における視力差と網膜厚差または脈絡膜厚差の間にはいずれも有意な相関がなかった．

［結論］不同視弱視でのみ弱視眼の網膜厚，脈絡膜厚が健眼，正常対照眼に比して厚かった．弱視の種類による厚みの差には視機能障害の程度の影響は少なく，弱視の発生機転の違いもしくは屈折異常の違いが影響していることが示唆された．